

■ 市長から市民のみなさんへ

山陽小野田市長
白井 信文



■ 院内保育所を始めます

市民病院は昨年10月1日開院(供用開始)し、おかげさまでたくさんの市民のみなさんに利用していただいています。現在、旧病棟の解体工事や駐車場の整備などに追われていますが、何とか4月1日には念願のグランドオープンにこぎ着けることができそうです。

さて、グランドオープンに合わせて、旧透析センターの跡地に同建物を改造した院内保育所を開設します。ここでは市民病院だけでなく、本市の全ての医療施設で働く医師、看護師、技師その他職員の就学前の児童を対象に、「24時間保育」(月～土曜日、日中は朝7時から夜7時。夜間は夜7時から朝7時)で預かります。目的は医療施設で働く人たちへの子育て支援ですが、医療施設ではどうしても夜勤当番が回ってくるため、市内の一般の保育所に先立ち、思い切って夜間も預かる24時間保育を導入しました。当面、夜間保育は週1回程度実施することとしています。保育所は、定員:25人、保育料:1か月2万5,000円(食事代別)、同一世帯の3人目以降:無料、一時保育:1回2,500円(食事代別)とする予定です。既に申し込みも来ていますが、先日、4月1日からの看護師の補充として3名募集したところ、なんと15名の応募があったそうで、病院では、これも院内保育所の開設と無関係ではないと嬉しい悲鳴を上げています。新病院の目玉の一つとして、たくさんの医療関係者のみなさんにご利用いただけることを期待しています。

■ いくつかご報告します

【山陽オートレース】

毎年暮れになると、山陽場所属の選手会(約70名)から寄附をいただいています。昨年は170万円もの寄附をいただきました。業界がきわめて厳しい昨今、選手会あげて、走路フェンスのペンキ塗り、地域イベントへの各種お手伝い、ファンサービスの強化などに取り組んでいただき、選手のみなさんの山陽オート存続への熱い想いが伝わってきます。

山陽オートでは、今年度は売り上げの落ち込みも、何とか食い止めることができそうですが、本場での売り上げは全体の1割程度。現状では約9割が場外発売や電話投票によるものです。改めてオート業界挙げての踏ん張りが期待されるところです。本市としても、まちづくりにレース場を活用するなどして賑わいを取り戻し、本場での売り上げを伸ばすことで、業界全体の活性化に貢献したいと考えています。

【広報活動アンケート】

昨年秋に無作為で抽出した1,200名の市民を対象に、広報紙やホームページなどの広報活動に関するアンケートを実施しましたが、「広報さんようおのだ」があまり読まれていない様子に落胆しました。自由記載欄にも、いまだに山陽町と小野田市との合併や、山陽小野田市の市名の長さへの不満などがあって、この10年、「とぎが止まったまま」の市民もいらっしゃる様子を、行政から市民向けの広報の努力不足を改めて思い知らされました。